

特集：環境保全に取り組む市民大集合 2011

10月1日の午後の部において活動事例を発表していただいた4団体の皆様のご紹介です。

NPO 法人生物多様性研究所あーすわーむ 「生き物の多様性を守るために」

私たちの名前「あーすわーむ」は、「ミミズ」のことです。ミミズは大地を耕すだけでなく、いろいろな動物の命を支え、生態系を支える大きな役割を担っています。私たちはそのミミズのように、人と生きものの良好な関係を3つの柱「生物多様性の調査」「野生動物の保護管理」「環境教育」で支えていきたいと、2008年から浅間山麓で活動を始めました。

たとえば、急増して農作物や森林生態系に大きな悪影響を及ぼしているニホンジカの生息調査を行っています。また、環境教育としては、交通事故や有害駆除などで死んでいった動物の解剖や標本作りを、高等学校への出張授業として行っています。授業を通して、「命とは何か」「野生動物と共存するにはどうしたらいいのか」など、高校生自身に考えてもらっています。

さらに重要な活動として、外来生物の調査や対策があります。外来生物は、生物多様性を減少させる原因の一つです。これまで、特定外来生物のアライグマ、アメリカカミンク、ガビチョウ、ソウシチョウ、さらにハクビシンの生息調査や排除の対策を行ってきました。中でも

アライグマは、県内の約3分の1の市町村で生息情報があり、農作物被害、家屋侵入による生活被害、資源をめぐる競争や捕食による在来種の排除、人獣共通感染症などが心配されています。今後、分布が拡大すると、ますます生態系への悪影響が懸念されるため、環境省や長野県と共に情報収集につとめ、早期対策を目指しています。
(福江佑子)



連絡先

NPO 法人生物多様性研究所あーすわーむ

〒389-0115 北佐久郡軽井沢町追分 1549-3-1

電話 :0267-45-5642

<http://npo-earthworm.jp/index.html>

NPO 法人ラポーザ 「北信濃の里山環境と生物多様性—希少猛禽類サシバからみる農村風景—」

私達は長野県のふるさとの原風景でもある北信濃地域において里山と生物多様性の観点から、里山の代表的な生物でもある「サシバ」を調査研究しています。

サシバは猛禽類と言われるワシタカの一種ですが、オオタカやクマタカなどと違い、カエルやヘビ、トカゲ、モグラなど、主に農耕地周辺に生息している種を捕食しています。そのため、水が張った水田や草刈りがされた田んぼの畔など、人間の生活に大きく密着してきた種でもあります。

活動（調査研究）は昨年度よりスタートし、今年が2年目となります。サシバが飛来する4月上旬より調査を開始し、東南アジアに渡る9月頃まで継続的に調査をしております。本年度は、北信濃地域において12ヶ所のサシバの営巣地を確認することが出来、すべての巣で雛を1羽～3羽確認することが出来ました。どの営巣地も巣の近辺に水田が存在し、繁殖期の最中は水田脇の電柱などに止まって餌探しをする姿を何度も確認することが出来ました。

また、サシバの調査研究以外に、休耕田の再生プロジェクトなども並行し実施しています。北信濃の里山環境も少しずつではありますが、耕作放棄地などが目立つ状況となってきています。このまま、耕作放棄地が増えていけば、里山としての地域の活力低下にもつなが

り、サシバを中心とする野生動植物の生息も危惧されます。そのため微力ではありますが、私達ラポーザでは地元の方から休耕田をお借りし、田んぼに水を張る活動を実施しています。本年度は水田1枚のみでしたが、トノサマガエルやクロゲンゴロウなどの生物の姿を観ることも出来ました。地道な活動ではありますが、今後も継続していきたいと思えます。

(荒井克人)



連絡先

NPO 法人ラポーザ

〒380-0867 長野市往生地 1423-2-712

電話 :026-219-5572/<http://npo.raposa.jp>

E-mail : info@npo.raposa.jp

環境ネットワーク・茅野 「みどりの少年団自然観察会」

茅野市立北部中学校では平成22年、一年生を対象にした「緑の少年団」が結成されました。今年度は森林保全など実践的学習を進めることになり、蓼科ダム計画跡地をフィールドとして、体験学習を行うことになりました。

環境ネットワーク茅野では奥蓼科一帯の自然に関する勉強会、散策会などを企画し、自然の魅力を市民に訴えてきました。次代を引き継ぐ子供達にこそ、それを伝えたいという思いから学習ボランティアとして参加することになりました。ダム計画跡地は15年前に皆伐されてそのまま放置され、在来種が一斉に芽吹き始めています。自然林への移行の真最中ということで、そのプロセスを見せることが狙いです。

体験学習は今までに6月と7月の2回行われ、10月半ばに1回が予定されています。1回目では「親しむ」ことを目的として、ダム跡地を8班にわかれて踏査しました。川で遊んだり、木陰で涼んだりしながら、再生しつつある森を体験し、いくつかの疑問点が生まれました。2回目は疑問点を整理し、項目別調査を行うことになり

ました。「天然林」「人工林」「歴史」「水環境」「自然との共生」「流域の全体像」の6項目です。

体験から生まれる疑問を課題とし、調査方法を決め、データを整理、まとめて発表するという一連の作業は、生徒たちにとって貴重な学習となるに違いありません。

(小林哲郎)



連絡先

環境ネットワーク・茅野

〒391-0301 茅野市北山 4035-271 小林哲郎 方

電話：090-1659-0102 (事務局 小林哲郎)

E-mail：sirius7500@indigo.plala.or.jp

自然保護レンジャー長野地域連絡会議 「自然保護レンジャーの活動」

長野県では、美しく豊かな自然環境を保全し後世に伝えていくため、ボランティアの力を借りて自然を守ることを目的とした、「長野県自然保護レンジャー」制度を平成13年にはじめました。現在、県から委嘱を受けた370名余のレンジャーが自然公園を巡回し、利用者に動植物の保護、施設の適切な利用をお願いしています。また、自然公園等の状況について関係機関に情報を提供することも大切な役目です。レンジャーの活動する区域は、地方事務所を単位としています。

長野地方事務所管内のレンジャーは、現在60名で、「自然保護レンジャー長野地域連絡会議運営委員会」を組織し、レンジャー個人での活動のほか、有志のレンジャーで構成する運営委員会が中心となり、メンバーの資質向上を目指し、研修会のほか年数回の「合同巡回」を行っています。合同巡回はレンジャー同士が交流することで、お互いの知識を補完しあったり問題点や課題を共有したりと貴重な情報交換の場になっています。また、環境省戸隠自然保護官事務所の自然保護官やアクティブレン

ジャーとの合同巡視に参加するなど垣根を越えて他の組織との共同作業も行っています。

巡回での報告は、ゴミ、植物の盗掘等自然保護、施設の不適切利用などが中心となっていますが、今後、自然利用と環境保全のあり方を考えたり、さらに突っ込んで環境保全について積極的に取り組んでいく必要性も感じています。

(水上則男)

(10月1日当日は河原田勲が発表)



連絡先

自然保護レンジャー長野地域連絡会議事務局

〒380-0836 長野市大字南長野南県町 686-1

長野県長野地方事務所環境課内

電話：026-234-9590